

アンゴラカリン (ムニンガ) (マメ科)

Pterocarpus angolensis DC.

一般名：Mninga(タンザニア); Ambila(モザンビーク); Mukuwa(ザンビア, ジンバブエ);
Kiaat(南ア); Girassonde(アンゴラ)、英語：African teak, African bloodwood/bleedwood



【概要】 インドカリン属 (*Pterocarpus*) はアフリカに 12-15 種を産するが、国際的に流通している樹種は西サヘルの *P. erinaceus*、中央アフリカの *P. soyouxii*、中南部の *P. tinctorius* と本種の 4 種である。いずれも赤みを帯びた心材 (k,i) が床板や家具材に好まれ、国際的な需要の高まりから資源の枯渇が懸念されている。とくに *P. erinaceus* と *P. tinctorius* は、近年、違法伐採とともに中国とその周辺国への輸出が急激に増加したため、ワシントン条約附属書 II に掲載され輸出入が制限されている。本種は中南部で最も広く利用されてきた樹種で、木材の副産物としての樹皮・鋸屑 (染料) や小規模な木工が農民の生計を支えている。

【形態と生態】 *Brachystegia* 属 (ミオンゴ) などの落葉樹が混交する乾燥林に生じる。分布の制限要因として、降雨の季節性、11 月降雨量、最寒月の最低気温が最も影響し、これらが南北の境界を形成している。

幹は通直 (写真 a, c, d) で直径 40-70 cm、樹高約 10-20 (30) m に達し、乾季に落葉する (写真 d)。樹皮は厚く、灰褐色、松肌のようにブロック状に割れ (写真 a, b)、材を傷付けると赤い樹液が染み出る。葉は奇数羽状複葉 (小葉 11-25 枚) で互生し (写真 e)、やや垂れ下がる (写真 c)。雨季に開葉前から総状花序 (f) を発達させ、花冠は黄色で芳香がありミツバチ等の昆虫が好んで訪れる (写真 f)。果実は円形 (直径約 10cm) の翼果で、中央に長い剛毛が密生する (写真 g, h)。その中に種子を 1(2) 個つくるが、不稔で空のことも多い (写真 i)。

種子を包む殻 (写真 i) は硬く、適度の火災が殻を燃やし発芽を促すと考えられている。実生

森林再生テクニカルノート：荒廃地修復のための主な植栽樹種

は、乾季に地上部が枯れ雨季に萌芽する叢生期 (suffrutex stage、～11 年) を経て、根を発達させてから火災に耐える太いシュート＝幹を伸ばす。成長輪を形成し、径級 45 cm で平均 93 年の報告がある。また、切り株からよく萌芽する (写真 j) が、直径 40cm 以上の切り株は火災による枯死率が高い。

【繁殖】 種子または挿し木による。殻から取り出した種子は、3 年間は低温乾燥貯蔵が可能、種皮処理で発芽が促進される。ポット苗は直根の根切りが必要である。叢生期の成長遅滞等で植林事業の成功事例は少ない。

【利用】 気乾比重 0.62、耐朽性、耐蟻性高い。現地ではドラムやカヌー、樹皮は民間薬として利用された。

【主な参考文献】 Therrell M.D., Stahle D.W., Mukelabai M.M., Shugart H.H. (2007) Age, and radial growth dynamics of *Pterocarpus angolensis* in southern Africa. *Forest Ecology and Management* 244: 24–31. De Cauwer V., Muys B., Revermann R., Trabucco A. (2014) Potential, realised, future distribution and environmental suitability for *Pterocarpus angolensis* DC in southern Africa. *Forest Ecology and Management* 315: 211–226. Van Holsbeeck S., De Cauwer V., De Ridder M., Fichtler E., Beeckman H., Mertens J. (2016) Annual diameter growth of *Pterocarpus angolensis* (Kiaat) and other woodland species in Namibia. *Forest Ecology and Management* 373: 1–8. Banda T., Schwartz M.W., Caro T. (2006) Effects of fire on germination of *Pterocarpus angolensis*. *Forest Ecology and Management* 233: 116–120.

(公益財団法人国際緑化推進センター 石塚森吉)

写真 a 樹幹 撮影地：タンザニア、撮影年月：2017 年 7 月、撮影者：石塚森吉

写真 b 樹皮 撮影地：タンザニア、撮影年月：2017 年 7 月、撮影者：石塚森吉

写真 c 樹形 (着葉) 撮影地：タンザニア、撮影年月：2019 年 12 月、撮影者：石塚森吉

写真 d 樹形 (落葉) 撮影地：タンザニア、撮影年月：2017 年 7 月、撮影者：石塚森吉

写真 e 葉 撮影地：タンザニア、撮影年月：2017 年 7 月、撮影者：石塚森吉

写真 f 花序 撮影地：タンザニア、撮影年月：2017 年 4 月、撮影者：石塚森吉

写真 g 枝上の果実 撮影地：タンザニア、撮影年月：2017 年 7 月、撮影者：石塚森吉

写真 h 果実 撮影地：タンザニア、撮影年月：2019 年 12 月、撮影者：石塚森吉

写真 i 果実断面 撮影地：タンザニア、撮影年月：2019 年 12 月、撮影者：石塚森吉

写真 j 萌芽枝 撮影地：タンザニア、撮影年月：2019 年 12 月、撮影者：石塚森吉

写真 k 折り畳み椅子の片側に刃物を付けてココナツを削り取る器具 撮影地：タンザニア、撮影年月：2019 年 12 月、撮影者：石塚森吉

写真 l テーブルの表面 撮影地：タンザニア、撮影年月：2019 年 12 月、撮影者：石塚森吉